

教職員 自己評価アンケート(後期) R5年度 12月実施

A(そう思う) B(ややそう思う) C(あまりそう思わない) D(そう思わない)

領域	No.	評価項目	R5・後期(%)				R5・前期(%)			
			A	B	C	D	A	B	C	D
学 校 運 営	1	教育目標・方針について共通理解をし、実現に努力した。	33	68	0	0	44	52	4	0
	2	生徒は学校生活を楽しんでいると思う。	39	61	0	0	26	74	0	0
	3	教職員は生徒と一緒によく活動している。	44	56	0	0	30	66	4	0
	4	校務分掌が組織的に機能し教職員の連携がとれている。	17	78	5	0	17	70	9	4
	5	学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている。	67	33	0	0	65	35	0	0
	6	授業公開・授業研究・校内研修の活性化が進んでいる。	67	33	0	0	57	43	0	0
教 科 指 導	7	生徒が意欲的に取り組むような授業の工夫をした。	59	35	0	6	59	41	0	0
	8	「学び合い学習」を意識した授業の工夫改善をした。	47	35	12	6	46	36	14	4
	9	生徒の学力は向上していると思う。	29	53	18	0	23	64	13	0
	10	指導の過程や終末での評価を適切に行った。	35	53	6	6	41	50	5	4
	11	計画的な家庭学習の手だてをしている。	53	35	6	6	27	64	9	0
	12	授業規律はできている。	24	71	5	0	27	64	5	4
	13	「羽咋の学び」を活用している。	12	59	29	0	14	73	9	4
生 徒 指 導	14	全教職員の共通理解に基づいた指導がなされている。	11	83	6	0	30	61	9	0
	15	生徒や教師のあいさつはよくできている。	6	61	33	0	13	70	17	0
	16	生徒理解に努め、教師と生徒、生徒と教師の好ましい人間関係が醸成されている。	28	72	0	0	22	74	4	0
	17	生徒や保護者からの相談には誠意を持って応じている。	61	39	0	0	57	43	0	0
	18	外部との対応についての体制が整っている。	44	56	0	0	35	65	0	0
	19	学校は校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。	50	50	0	0	48	48	4	0
特 別 活 動	20	生徒は生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	17	83	0	0	26	70	4	0
	21	生徒は学校行事に積極的に取り組んでいる。	67	33	0	0	44	56	0	0
	22	部活動は生徒にとっても教師にとっても充実している。	6	83	11	0	17	70	13	0

【改善された点】

- ① A評価が5ポイント以上向上した項目が5項目ある。
項目 3：生徒と教師との協働
項目 11：家庭学習の手立て

【課題となる点】

- ① A+B評価の割合が大きく減少した項目
項目 9：生徒の学力の向上 (-5%)
項目 13：「羽咋の学び」の活用 (-16%)

【考察】

- ① 学校全体としては、落ち着いた雰囲気で行われている。A+B評価の割合は全体的には向上している。
- ② 教科指導については、「学び合い学習の工夫改善」「個の見取りと評価」「羽咋の学びの活用」が弱いため、学力の定着と向上が鈍っている。
- ③ あいさつについては、指導の継続が必要である。

【今後の方向性】

- ① 教育目標・方針の再認識と、さらなる組織的な学校運営に努める。
- ② 「羽咋の学び」を形骸化せず、明確に示した生徒に身に付けさせるべき力を各教科等で培っていく。
- ③ 今まで以上に生徒の姿を見取り、指導改善・授業改善に努める。

- ・生徒や保護者に寄り添い、丁寧に話を聞き、対応している。生徒理解に努め、小さな変化にも気を配り、支えている。
- ・教師も生徒も学び合いの場で、必要に応じて端末の活用し、深まりのある学びとなっている。
- ・羽中プロジェクトを実施し、学校が一丸となって伝統を受け継ぎ守る意識を高めている。
- ・生徒にとっても教師にとっても、学びの場、成長の場となっている。